

原子力リスク研究センター（NRRC） 第11回 原子力経営責任者会議 議事録

1. 日 時：2018年11月9日（金）13:30～15:30

2. 場 所：電力中央研究所（大手町本部）役員大会議室

3. 出席者：

主査：アポストラキス（NRRC）

委員：阪井（北海道電力）、増子（東北電力）、牧野（東京電力 HD）、
倉田（中部電力）、石黒（北陸電力）、森中（関西電力）、岩崎（中国電力）、
玉川（四国電力）、豊嶋（九州電力）、石坂（日本原電；市村代理）、
武井（日本原燃）、浦島（電源開発）、横尾（NRRC）

オブザーバー：渥美（電事連）、倉田（原安進；中野代理）、門上（ATENA）

NRRC 幹部：高橋、白井、梅木、山中、稲田

幹事：岡本（NRRC）

4. 議 題：

(1) 2019年度 NRRC の研究計画について

NRRC より、2019年度研究計画について説明した。

(2) NRRC 活動状況

NRRC より、「原子力リスク研究センターの活動概要」と、「NRRC 公開ワークショップ（案）」について報告した。

（所長の主な発言）

- ・原子力発電の「安全性の向上」という言葉が引き続き使われているが、永久に安全を向上させると言い続けるのは合理的ではなく、一定の安全レベルに到達したのであれば、以後は「継続的にリスクをマネージし続ける」という方が現実的である。
- ・安全目標を測ることにに関して、日本では規制当局によって「これが公式の安全目標である」というものは表明されておらず、非公式のゴール、安全目標が規制体制の中にじわじわと入りこんでくるのを許してしまっている。今進めていく必要があるのは、日本の安全目標をどこに置くかという議論を規制委員会と始めることである。

以 上